

根拠を読む 答えを作る

高校入試につながる標準から応用

対象を限定し、複数の根拠をつないで、問いの条件に合う説明を書こう。

一 問いを解答の部品に分ける

「なぜ」なら理由、「どういうこと」なら具体化、「どう変わったか」なら前と後を答えます。問いの対象・範囲・指定語を先に囲み、書き出す前に必要な要素を二〜四個に分けましょう。

二 根拠と結論を区別する

「日誌に雨の日がある」は根拠ですが、「写真もその日だ」は別の結論です。資料や本文が確かめた対象を確認し、答えが根拠より広い断定になっていないか点検します。

三 離れた情報をつなぐ

一文だけで答えを作れない問いは、初めと終わり、原因と結果、具体例と主張を結びます。先に段落番号と必要語をメモし、重複する説明を削って一つの文にまとめます。

四 心情は場面と行動から読む

「うれしい」「悲しい」だけで終わらず、何がきっかけで、何をどう受け止めたのかを示します。言わなかった言葉や繰り返した行動も、前後の会話と合わせて根拠にできます。

読み方を確かめる

学習ポイント つづき

五 反対意見と限定を残す

筆者が一部の懸念を認めても、主張を取り消したとは限りません。「ただし」「一方で」の前後を読み、認めた部分と退けた部分を分けます。条件を削って「必ず」「全員」と強めないようにしましょう。

六 書く前の小さな設計

例：なぜ測り直したか。必要な内容は「時刻が違う」「活動が違う」「場所だけの差と言えない」。解答例：測る時刻と活動の状況も違い、数値の差が場所だけによるとは判断できなかったから。本文と問いの両方に戻って確かめます。

七 字数と内容を別々に点検する

句読点・かぎカッコ・小さい文字も一字です。抜き出しは表記を変えません。説明は本文の語をそのまま並べる必要はなく、同じ意味の表現も使えます。内容→主述→字数→指定語の順に見直します。

八 この教材の使い方

A・Bで根拠から説明を作り、Cで条件を残して論をまとめます。Dは全8問100点、目安35分です。A～Cは採点の観点を使って練習し、Dだけ得点を付けます。字数が足りないときは、感想で埋めず不足した根拠を探しましょう。

本文・設問は本教材のために作成したオリジナルです。人物・学校・地域・出来事は架空です。